

# 支承防錆工の作業手順

制定・改定日 2022.2.18

項 目	内 容	留 意 事 項
準備工	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業内容の確認</li> <li>作業人員の確認</li> <li>保護具の点検</li> <li>使用機械、資材、工具の点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示書の内容確認</li> <li>安全打合せ書による。</li> <li>作業別安全チェックシートの活用。</li> </ul>
沓座清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>支承周りに堆積した土砂等を清掃、除去する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全帯を必ず使用する。</li> <li>土砂の落下に十分注意をする。</li> </ul>
潤滑剤注入工	<ul style="list-style-type: none"> <li>支承滑り面に注入ポンプを使用し潤滑剤を、注入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目に入らない様に保護眼鏡等の保護具を着用し作業をする。</li> </ul>
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンドブラストを使用し支承に発生した錆の除去をすると共に、支承の表面を滑らかに仕上げる。またほこり対策でシート養生を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラストマンは、完全な保護具の着用をし、作業エリア内には、ブラストマン以外は、立入禁止にする。</li> <li>ほこり対策のシートはすき間の無いように設置する。</li> </ul>
亜鉛溶射	<ul style="list-style-type: none"> <li>亜鉛線を使用し支承に亜鉛溶射を行います。亜鉛は、JIS8300に規定する等級・被膜厚さに準ずる事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火気厳禁</li> <li>目や気管に入らない様に保護具を着用し十分注意を行うこと。</li> </ul>
上塗塗装	<ul style="list-style-type: none"> <li>上塗り材はエポキシ系浸透性保護材を使用し、エアレスプレーガンを使って塗装を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護具の完全着用。</li> <li>塗料の飛散防止。</li> <li>天候、湿度に十分注意を行う。</li> </ul>
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。</li> <li>はつきりかす、研磨かすが無い様に、綺麗に清掃する。</li> </ul>

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
						ヘルメット	保護メガネ
						反射(自発光)チョッキ	耳栓
						警笛	安全帯
						防塵マスク	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

## ■注意事項(共通の指導事項)

- 安全帯を必ず使用する。
- 作業に合った保護具を使用する。
- 有資格者による、機械作業を行う。
- ほこり対策のシート養生は、すき間の無いように行う。
- 手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 一人作業の禁止**